

## 白馬岳開山祭の前に

### 「白馬大雪溪の崩落現場」の視察を実施しました

～「H17年」及び「H18年」に発生した崩落箇所周辺の視察～

「平成17年8月11日」及び「平成18年7月22日」に発生した白馬岳周辺の崩落現場やその他の崩落発生状況の把握の為、昨日の5月21日に視察を行いました。

今回は本格的な登山シーズンを迎えるにあたり、過去の崩落箇所や周辺の荒廃状況を上空から把握する為、白馬村の依頼により松本砂防事務所では、信州大学名誉教授の北澤秋司先生をはじめ関係機関と合同で、ヘリコプターによる上空からの視察を実施しました。

この視察後に、北澤先生から所見をいただいております。

これを受け、白馬村では5月26日（土）の白馬岳開山祭後の対応は、昨年度と同様に大雪溪の通行は可能であるものの、安全対策として「雪上歩行の遵守」とともに、「崩落の危険性」について登山者への注意喚起を積極的に呼びかけることとしています。

また、融雪後に関係機関と合同で現地視察等を進める予定です。

1. 視察実施日 平成19年5月21日（月）午前
2. 視察メンバー 信州大学名誉教授 北澤 秋司 先生  
長野県白馬村、長野県砂防課、長野県姫川砂防事務所、北アルプス遭難対策協議会、松本砂防事務所

3. 北澤先生の所見 別紙のとおり

お問い合わせ先 北陸地方整備局 松本砂防事務所 電話（0263）33-1115（代表） 調査課長 長谷川 達也（内線351） 白馬村 電話（0261）72-5000（代表） 建設課長 太田 忠
--



※地図は「山と高原地図『白馬岳』；昭文社」より引用

～北澤先生のプロフィール～

○北股入沢（ネブカ平）崩壊対策検討委員会（H12.5 設立）委員長

・委員会設置目的

北股入沢の白馬大雪溪上流のネブカ平付近において、登山道及びお花畑周辺の土砂崩落・浸食防止を図る為、対策について検討することを目的に、自然環境・砂防の学識経験者ならびに地元有識者をメンバーに発足。

・メンバー 白馬村、長野県、信州大学、国土交通省、  
北アルプス遭難対策協議会

○平成11年4月1日より信州大学名誉教授

○山地環境防災研究所 所長

## 別紙2

平成19年5月21日（月）

現地へり視察後の北澤秋司先生（信州大学名誉教授）のコメント

### <H17. 8白馬岳土砂崩落現場のへり調査結果>

#### [崩落現場状況]

H17年8月に崩落した斜面は、現在のところ安定状態を保っているように見え、拡大してはいない。凍結・融解に伴う崩壊は発生していない。また、他の斜面の崩壊も見あたらない。昨年コメントしたように、大規模な崩壊は頻繁には発生しないと考えられるものの、再度の崩壊の拡大や新たな崩壊を予知することは非常に困難である。

一方、崩落した土砂は雪渓の上にあり、今冬の積雪により、その全てが外観できる状態にない。積雪の下にあることから、これから夏にかけて融雪が進み、土砂が露呈したのちに、再度現地を確認する必要がある。

#### [対応策]

崩落して雪渓上に堆積した土砂が融雪により露呈しない限り、これによる影響は無いものと考えられるため、当面、雪上の歩行は従来どおりで良いのではないかと考えられる。

登山者への安全対策については、融雪が進み、崩落土砂が露呈したのちに、土砂流出の注意喚起を行う必要がある。登山関係者からこれを行うこととしてはどうか。崩落土砂の再移動に伴う対策については融雪後検討が必要になってくるものとする。

## 参考

合同視察の際のヘリからの撮影写真（過去との比較）

◎ 平成 17 年 8 月 11 日 崩落後の状況



◎ 平成 18 年 5 月 18 日の状況



縦の亀裂が目立つ崩落現場

◎ 平成 19 年 5 月 21 日の状況



昨年と比べ積雪がやや多いものの、土砂流出状況の大きな変化は無いものと考えられる。